
輝く光のもとに

来夏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

輝く光のもとに

【Nコード】

N1177D

【作者名】

来夏

【あらすじ】

華麗は高校生バイト煮遅刻しそうになったあの日事件が起こる2人の運命の出会いが

第1話出会い (本当の真実)

あなたは人の死についてどう思いますか？
もしもあなたの大切な人がこの世から去ってしまったら
どうしますか？

この物語は愛する人を亡くしてしまった一人の少女が主人公です。

少女の名は、和木田 華麗。

高校2年生。修学旅行が迫ってきたあの日。

彼女は大切な人と出会う。

その大切な人は華麗の彼氏になる人である。

同じ高校の3年生だったあの人。

名前は桜小路 翼 (さくらこうじ つばさ)。

その日。華麗はバイトに遅刻しそうに焦っていた。

教室からダッシュで玄関へ

行こうとしてたらいきなり向こう側から大きな体が飛んできた。

「痛っ。」

「大丈夫かい？」

「大丈夫です。」

そっぴい顔を上げると超カッコイイ人が目の前にいた。

心配させないように立ち上がるうとするがたてない。

「大丈夫じゃないんじゃない？」

黙り込む華麗。

「ちよつと待ってて。先生呼んでくるから。」

つと言つと彼は足早に職員室に向かった。

結局そのときの怪我は足の骨折だった。

次の日登校すると玄関で私を待ってたあの人。

「待ってたよ。華麗ちゃん」

突然のことに驚く華麗。

「何でですか？」

「だって君の怪我の原因は僕がぶつかったからだろ？」

「でもあたしも悪かったんです。」

彼はにこやかな笑顔で

「別に僕が好きでやるから良いだろう？教室まで送るよ。僕の名前は桜小路 翼ヨロシク」

というと彼は私をおんぶして2階の教室まで向かった。

暖かい背中が心をキュンとさせた。その日の帰りも私をおんぶしてくれた。

そんな生活が4週間ぐらい続いた。

怪我が治ったくらいから二人は付き合い始めた。

毎日のようにメールをし電話もして楽しい時間だった。

デートの約束もした。次で10回目。ということと10月10日の学校が終わった後に.....

校門のところで待ち合わせという約束だ。

でもその約束は叶わなかった。

10月10日この日は翼の入院した日。

この日は普通に授業のあった日。

朝学校に行くと学校中である噂が流れていた。

「嘘マジ？」

友達の真紀たちが何かを話してる。

「どうしたの？」

私は聞いてみた。

「華麗……」

真紀は驚いていた。

「真紀？」

真紀は口を開いた。

「あのね翼先輩入院したんだって」

「えっ？本当？」

「本当らしいよ」

呆然と立ち尽くす華麗。言葉が出ない。

「どこの病院？」

「緑山総合病院……あんた行くんじゃないよね？」

「行くに決まってるでしょ。あたしの大切な人なんだもん」

そっとうと華麗は病院へと走り出した。

病院で翼の病室を聞き足早に向かう華麗。

看護婦さんから聞いた190号室に着いた。

中に入ると翼が今まで見たこともないくらい弱ってた。

驚きのあまり声がでない。

一気に翼の命の炎が消えるような感じがした。

「華麗……」

翼は苦しそうにそっと私の名前を呼んだ。

「翼……」

いやな夢を見ている気がした。

逃げたくて仕方なかった。こんな現実ないほうがいい華麗は思った。

「華麗ゴメンな。約束守れなくて」

「別にいいよ。それより翼調子はどう？」

何気ない華麗の質問黙り込む翼。

「翼？どうしたの？」

返事がない。

「翼？何か隠してる？」

「弱弱しい息の音が聞こえる。」

「あのな俺の病気は難病でもう残りの時間も少ないんだ……………」

「

翼は言った。何か胸が苦しくなった華麗。ただただ翼の手を握ることにしか出来なかった。

「あと2ヶ月しかもたないんだって」

「悲しそうな翼の目。ますます胸が苦しくなる。」

「翼いやだそんなの」

泣きながら翼の胸の中へいく華麗。

そんな華麗を優しく抱く翼。

二人の目には涙があった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1177d/>

輝く光のもとに

2011年1月14日14時22分発行